

# 回旋偏位検査—自覚的検査 大型弱視鏡検査



目的

- 遠視の両眼視の把握(この場合は回旋偏位)
- 後天性眼球運動障害で複視を訴えている場合のむき(9方向)眼位での回旋偏位の把握

## 準備物 大型弱視鏡・回旋用スライド

器械の準備をする



光学台と椅子の高さの調節  
額台・額当て・瞳孔間距離・頂間距離・目盛りのチェック  
をすること。詳細は大型弱視鏡の説明の通り。

必要に応じて屈折矯正をする

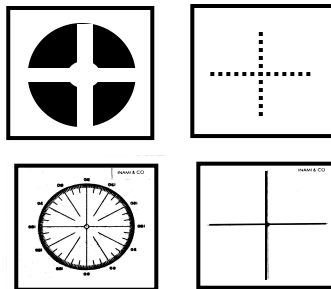


通常、補助レンズホルダで!

固視眼と思われるアームを0°にロックし円視標スライドを入れ、検査眼に十字視標を入れS.A.にアームを動かす



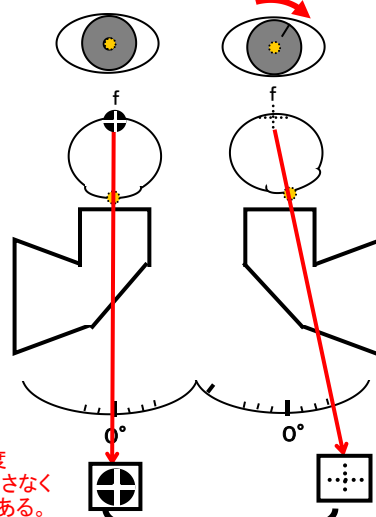
縦長のSP視標で代用することもある。  
例) 兵隊と家



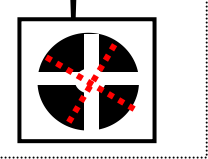
回旋偏位検出用同時視スライド

スライドの円視標の方に角度目盛がついており、ノブを回さなくとも判らようになっていものもある。

例) 左眼 外方回旋斜視



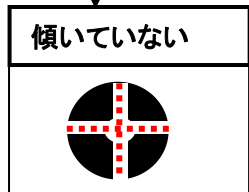
視空間



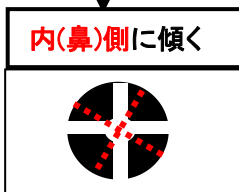
被検者の見え方

NO 十字がどちらかに傾いているか? YES

\* 図は左眼に十字視標の場合



回旋偏位なし



外方回旋斜視(位)



内方回旋斜視(位)



軽度の場合、回旋はすぐに融像してしまうので手早くな。

日常、複視があって傾いて見える意識があると斜視ではあるが、この検査だけでは斜視か斜視かの判別はできない。

被検者の誘導によって検者が検査眼の視標回旋調節ノブを十字の傾きがなくなるまで外方回旋なら ex に、内方回旋なら in の方向に回し調整する

例)

8目盛 ex に回すと円視標と合致した!

その時の視標回旋調節ノブの目盛と ex または in が回旋の大きさと方向(単位は度)



incyclo: INC(内まわし)  
exyclo: EXC(外まわし)

記載例)

屈折矯正の有無も記載すべきだが、記載は色々。

水平偏位	上下偏位	(exyclo: 外まわし)
R: -5°	R/L10°	EXC 8°



大型弱視鏡の場合、回旋の検査を単独で行うことは少ない。なぜなら上下筋麻痺の時に随伴するので、9方向眼位と合わせて行う。

# 回旋偏位検査—自覚的検査 Phase difference haploscope(位相差ハプロスコップ)

## 準備物 Phase difference haploscope・回旋用スライド



目的

日常に近い遠・近の両眼視の把握(この場合は回旋偏位)

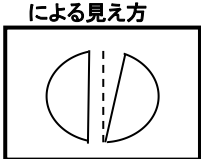
眼位検査が可能な程度の半暗室にて、距離は自由に設定できるが、通常遠見 2m、近見 30cm に設定する



ハプロスコップの詳細は網膜対応検査の項に。

回旋偏位の半月スライドをプロジェクターに装用する

回旋偏位のスライドによる見え方

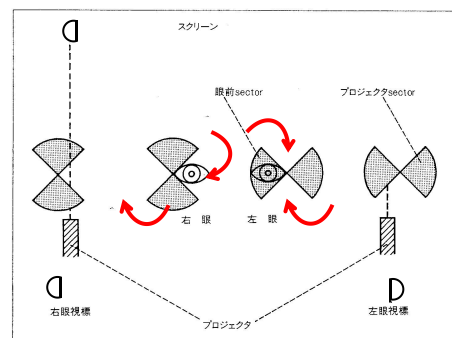


大型弱視鏡に準じて操作する

NO どちらかの半月スライドが傾いているか? YES

回旋偏位なし

回旋偏位あり



原理 丸尾敏夫他: 斜視・弱視診療アトラス P47 図1



扇形のセクターを90°の位相差で左右眼の眼前で高速で回転させ、左右眼を瞬間的に交代視させて分離する。そして各眼別々の視標をプロジェクターからスクリーンに投影し、自然な状態で検査できるようにしたもの。